

考えてみませんか。
わたしたちの、
食べもののこと。

イラスト・福田利之



日本は山がちな国です。

わずかな平地にたくさんの方が住んでいます。

田んぼや畑にする土地が少ないので、

みんながいま食べているものを

国内だけでは作ることができません。

もっと豊かな土地がある国では、

それぞれが得意な食べものを作り、

余ったぶんを輸出しています。

わたしたちが食べるもののなかで、
国内で作られているものは
4割です。

6割は、遠いよその国で

よその国の資源を使って作られ、

それをわざわざ運んでいます。

日本に住むみんなの食べものを

国内で作ろうとしたらどうなるでしょう？

……ほとんどが米と芋になってしまいます。

しかもギリギリの量しかできません。

もちろん、



よその国とちゃんと仲よくしていれば、
食べもののことを心配しなくてもよい、
という人もいます。

でも、世界の人口は

爆発的に増えている、

このままでは

食べものの生産が追いつきません。

人々の生活が豊かになって、

肉や卵を食べる量が増えると、

そのエサとなる穀物は

もっともつと必要になります。

穀物をエネルギーの原料として利用する動きも、
これからどんどん盛んになっていくでしょう。

地球温暖化の影響で、砂漠化が進んだり、
気候も不安定になってきています。

食べものを作るためには、

たくさんの水が必要ですが、

それも足りなくなってきました。



もし、このまま世界中で
食べものが足りなくなってくれば、
どこの国も自分たちで食べるぶんを
大切にしてください。

食べものの価格が上がって、
取り合いの競争がはじまるかもしれません。

そうになると、食べものの多くを
よその国からの
輸入に頼っている日本は、
困ってしまいます。

日本は山がちな国です。
たとえ国内の平地をすべて使っても、
いま食べているものを作るのに
必要な広さのやっとなり半分。
ぜんぜん足りません。

だからこそ、大切にしていきたいでしょう。
食べものを生み出してくれる田んぼや畑を！
限られた田んぼや畑を荒らさないように。
ちゃんと作物を植え、育ててもらおうように。



わたしたちの食べものを、
わたしたちの手で守る。

これは、この国で生まれたわたしたちが、
この国で暮らしていくなかで
きちんと考えなければならぬ問題です。

みんながこの国で作られたものを
もっと手に取るようになれば、
問題は、一步、解決に近づきます。

わたしたちの健康のために。
わたしたちのふるさとのために。
わたしたちの未来の子どもたちのために。
そして、地球みんなの環境のためにも。

あっ、
ほかほかの
白いごはんが食べたいな。



マガジンハウス

×

MAFF

awan

クワサン

Hanako

BRUTUS

Tarzan

農林水産省
maff.go.jp